



入職動機について

Q: 竹田総合病院へ入職したいと思った動機はなんですか？

【答えた先輩】

赤松 伸哉



平成29年度採用 岐阜医療科学大学卒

A: 私が竹田総合病院に入職したいと思った動機は2つあります。

1つ目は、学会発表や研究に積極的に取り組んでいるからです。県や全国の学会で発表する先輩方が多く、常に向上心を持って取り組まれている印象を持っていました。竹田総合病院では、研究や学会発表するスタッフに対するサポートが充実しています。私もここで診療放射線技師として成長したいと強く感じました。

2つ目は、職場の雰囲気が良いからです。病院見学で訪れた際に、スタッフの皆さんが楽しそうに業務をされており、とても明るい職場だなと感じました。このように恵まれた環境は私が思い描いていたものでした。そんな竹田総合病院ではモチベーションを高く持って働ける環境だと思ったため入職を希望しました。

先輩診療放射線技師がお答え!

放射線科 Q&A

いろんな質問
先輩に
聞きました

放射線科の特徴について

Q:放射線科のアピールポイントを教えてください。

【答えた先輩】

真壁 晴香



平成29年度採用 つくば国際大学卒

A: 放射線科は総合医療センターの2階西側にまとまっています。(放射線治療のみ1階です) ほぼ全てのモダリティが一か所にまとまっていることで、診断から治療までの流れを各モダリティの視点から見る点が、魅力だと思います。

また、放射線科医との距離が近く、画像読影や疾患についての疑問をすぐに聞くことができる点も魅力です。

最新の装置を導入しているモダリティも多く、充実した装置による高精度な検査・治療により、地域医療へ貢献しています。

院内外を問わず、研究会や学会への参加・発表が積極的に行われており、各種認定・資格を取得している技師も多くいます。これらを通じて、診療放射線技師として成長し、各分野で活躍することが期待できます。

Q:担当するモダリティはどのように決まるのですか。

A: 入職後は、新人教育担当者が組むスケジュールに沿って、まず、一般撮影・ポータブル撮影・透視検査・CTを、続いてMRI・血管撮影検査を研修します。(女性技師は、時期を見てマンモグラフィ検査を研修します) 基礎的なスキルを身に付けた後に、担当部署が決まります。担当になった部署では、装置・検査の全般において、より専門的な知識や経験を得ることができます。また、習得期間が設けられるため、どの部署の担当になったとしても安心です。

担当する部署は、数年でローテーションになります。様々なモダリティの経験を通し、将来、専門的な知識を学びたい分野を見つけることができます。

また、女性技師は、担当部署とマンモグラフィ業務を兼務することとなります。

先輩診療放射線技師がお答え!

放射線科 Q & A

いろんな質問
先輩に
聞きました

職場環境について

Q: 放射線科の雰囲気はいかがですか

【答えた先輩】

篠崎 直也



平成21年度採用 城西放射線技術専門学校卒

A: 当放射線科では幅広い年齢層のスタッフが、みんなで協力しながら和気あいあいと働いています。放射線科の読影医や他科医との距離も近く、検査の相談や疑問点もすぐに解決できています。モダリティが多いので1年目から多くの知識と技術の習得が必要とされますが、分からない事があると先輩方が最後まで丁寧に指導してくれます。また時には一緒に勉強し、より良い検査となるように日々努力しています。

科内での勉強会を始め、全国で行われる学会発表にも積極的に取り組んでおり、希望があれば1年目から研究や学会発表の経験を積むことができます。仕事だけでなく、放射線科でチームを作り野球大会に出場したり院内の運動会に出場したり、一説によると人口当たりの居酒屋の数が全国Top10に入るとも言われている会津の町に繰り出したりと、プラベートも充実したものにできます。



新人教育について

Q:新人教育制度の内容と成果について教えてください。

【答えた先輩】

二瓶 陽子



平成15年度採用 岐阜医療技術短期大学卒

A:放射線科の新人教育制度は、教育担当の先輩技師が中心となり新人技師の指導に当たっています。まず、本採用に向けて一から研修を始め、基本的な技術の習得を目指します。その中では患者さんへの接し方、医療スタッフ間でのコミュニケーションの取り方、医療に関わる者の心構えなども、しっかりと学んでいただきます。

次に救急患者の対応という、休日の日直業務の習得を目指します。

日直業務では緊急性の高い検査が多くなりますので、基本的な撮影法を応用する力が求められます。また、昨今では診療放射線技師の役割が拡大傾向にあり、臨床の現場でも画像を読む力も求められるようになってきました。緊急処置に繋がるような異常画像所見を見落とさないように、段階を追って一般撮影やCTでの臨床画像を読む力も養っていきます。

年間を通して新人教育担当が定期的に面談を行い、新人の習得状況を把握することで、苦手な分野の克服を目的に練習を行ったり、時には一緒に考えたり、新人が抱える不安にも気づくことができたりします。

新人が目標をもって研修に取り組めるよう、全力でサポートしていきますので私たちと一緒に働いてみませんか？



新人教育について

Q: 1年目に新人教育制度を経験していかがでしたか？

【答えた先輩】

佐藤 美優



平成31年度採用 中央医療技術専門学校卒

A: 放射線科では、1年目から多くのモダリティーを研修できることが魅力的なところです。

1年目の業務内容は、教育担当者が作成したスケジュールに沿って、各モダリティーをローテーションしながら基礎的な知識・技術を身につけていきます。まず初めに、一般撮影・ポータブル撮影・透視検査、次にCT、MRI、血管撮影検査、マンモグラフィー（女性技師のみ）と1年間でそれらの業務を習得していきます。覚えることがとても多く大変ですが、教育担当者が複数人いるのでいつでも相談でき、撮影技術の練習にも協力していただけます。また、毎月、教育担当者とのミーティングが設けられ、業務の進捗度や不安な点などを話し合い、次月に向けての課題を提示し一つずつ確実にできることを増やしていくことができます。

このように先輩方の全面的なサポートのもと着実に知識と技術を習得でき、放射線技師としても医療従事者としても様々な点において日々成長することができます。



女性スタッフのケアについて

Q:産産休・育休明けの業務に対して、配慮などがありますか？

【答えた先輩】

松野 佳子



平成16年度採用 東洋公衆衛生学院卒

A:産休・育休明けは、長い間業務から離れているため、放射線科独自の産後復帰プログラムに沿って業務をしてもらいます。

その目的として、①仕事の勘を取り戻し、体を慣らしていくこと、②休み中に変わった撮影などに関するルールを確認すること、などです。約1ヶ月間で各モダリティを回ります。休み明けは、1人で業務を行うことに不安がいっぱいあることを配慮し、余裕のある人数体制で業務を行います。少しずつ業務に慣れてもらい、予備日もプログラムの中にあるので、自分で不安だと思うモダリティは多めに回ることも可能です。

長期休暇明けに周りと同じ業務をこなすことは負担が大きいと思われるので、このプログラムで体を慣らし、大変だとは思いますが育児と仕事を両立させてほしいと思います。



女性スタッフのケアについて

Q:産休・育休明け業務に対して不安などはありませんでしたか？

【答えた先輩】

長谷川 美穂



平成28年度採用 国際医療福祉大学卒

A: 育休が明ける前は、職場に復帰したとき1年のブランクを埋めることができるか、育児と仕事の両立をすることができるかといった不安がありました。実際に復帰すると、産後復帰プログラムを用意していただき、産前に行っていた業務である一般撮影、CT、MRI、マンモグラフィ、血管撮影検査を1ヶ月で数日ずつ周り、業務内容を思い出しながら、また、新しく変更になった業務を教わりながら行なうことができました。

1ヶ月のプログラム終了後も、不安が残るモダリティに関してはプログラムを継続し、復帰後に不安が残ることがないように支援していただきました。また、日直や宿直、遅出、準夜勤務に関しては子どもが小さいうちは、希望により免除を受けることができ、自分の希望するタイミングで復帰することができます。子どもの急な体調不良にも相談に乗ってもらえるので、育児と仕事の両立が無理なくできるととても働きやすい職場だと思います。



勤務体制について

Q: 放射線科の勤務体制について教えてください。

【答えた先輩】

太田 伸矢



平成23年度採用 新潟大学卒

A: 診療日以外の日勤帯の勤務は日直体制で行われます。診療放射線技師3人体制で、一般撮影やポータブル撮影、CT検査、MRI検査が主な業務です。他にも透視検査や血管撮影検査などが入ることもあります。

日勤帯以外の時間（17：00～翌日8：50）は宿直体制となり、診療放射線技師1人で担当しています。日勤帯と比較し長時間の勤務となり、また時間帯により業務が混み合うこともありますが、宿直担当者をサポートするために、早番・遅番・準夜勤務などの勤務があります。

診療日は、早番（6：45～15：25）と遅番（12：50～21：30）、診療日以外では早番（7：45～16：25）と準夜勤務（15：35～翌0：15）の診療放射線技師がそれぞれ1名ずつ配置されています。

基本的に日直・宿直・遅番・準夜勤務を担当する日は、勤務表によって指定されますが、学会・研究会等への参加や休暇取得状況など個人の状況に応じて調整することも可能です。



診療放射線科技師とは

Q:理想とする診療放射線技師像とはどのようなものですか。

【答えた先輩】

早川 努



平成15年採用国際医療福祉大学卒

A: 私が理想とする診療放射線技師像は、向上心を持ち続けることができる診療放射線技師です。

X線が発見され、放射線が診療に利用されるようになって以来、医療は日々進歩してきました。それに伴い発展する高度な装置を取り扱いながら、常に適切な医療を提供するために、私たちには日々の研鑽が必要です。

また、私たちは放射線という、目に見えないものを扱っています。患者さんには分かりにくいため、十分に納得してもらえだけの知識と技術が必要です。向上心を持って日々の診療にあたることが自分自身の成長につながり、やりがいとなりますし、患者さんの信頼を得られる診療放射線技師になることができると思います。

理想の診療放射線技師像は人それぞれですが、皆さんもご自身の理想をお持ちのことと思います。その理想を胸に、私たちと共に働いてみませんか？